

ランチョンセミナー

「水環境分野で働く女性たち：キャリアについて考えてみよう！」報告

男女共同参画推進委員会 麻布大学 大河内 由美子

第50回年会の初日、3月16日（水）の12時20分～13時30分に、ランチョンセミナー「水環境分野で働く女性たち：キャリアについて考えてみよう！」をA会場において開催した。本セミナーは第48回年会から通算3回目の実施である。今回は、男女共同参画推進委員会と中国・四国支部、関東支部の共同企画として、サブタイトルに示すように、とくに学生会員・若手会員を対象としたキャリアデザイン支援を主目的とした。

セミナーでは、さまざまな形で水環境分野において活躍されている女性技術者・研究者との交流・情報交換を行った。具体的には、全国の各種機関に所属する女性技術者・研究者15名を話題提供者として迎え、48名の学生会員が参加した。話題提供者の内訳は、民間企業6名、地公研・地方行政機関6名、国立研究機関1名、大学教員2名であり、そのうち10名は四国4県からの参加であった。また、民間企業からご参加いただいた話題提供者1名は一時保育室を利用してお子様連れで年会に参加されていたが、お昼休み中は一時保育サービスが利用できないため、お子様も一緒にセミナーに参加いただいた。一方、参加者の構成は、男性参加者や留学生が3名ずつ、また過半数が学生会員ではあったが、30代後半～40代のキャリアチェンジを視野に入れた参加者も散見され、多様性に富んでいた点が印象的であった。

会場では、4グループに分かれて話題提供者が3～4名ずつテーブルに着席し、話題提供者の周りを参加者が囲む形で着席した。初めに、男女共同参画推進委員会池本委員長からのセミナー開催挨拶と趣旨説明に続いて、同委員会大河内の進行で、まず話題提供者から簡単に自己紹介（略歴とこれまでの業務経験など）を行った。その後、テーブルごとにランチ（可愛いスイーツ付き）

を食べながら自由に情報交換を行った（写真1）。途中1回の席替えを挟んで、1時間弱と短い時間ではあったが、学生会員から博士後期課程への進学に際して抱えている不安（プライベートライフ含む）とその解消方法、就職先を探す方法に関する質問、実際の家庭と仕事の両立の様子や日々のタイムスケジュールについて等、活発なやり取りが行われた。参加者が想定人数を上回ったこともあり、写真1からもわかるようにぎっしりと詰めて座っていただくことになってしまったが、その分密な懇談となったなら幸いである。

セミナー終了後も、話題提供者の皆様それぞれの立場からご意見が寄せられた。ご自身が後続の若手に対するロールモデルとしての役割を求められつつも、ご自身にとってのロールモデルが必ずしも存在するわけではないため、こうした企画は心強い、次の機会も参加したいとの意見もいただき、学会として世代間・異業種間の交流機会を継続的に持つことの重要性を改めて認識した。ただし、本セミナーでは時間も限られているため、引き続き学生・若手会員のキャリア支援に重点を置きつつ、他の機会を活用して会員同士の交流促進を図ることが望ましいと考える。

なお、本ランチョンセミナー開催に先立って、学生会員の年齢構成を委員会で調べたところ、各年齢区分における女性会員数が全会員数に占める割合は30代後半の区分で10%を切り、その前後と比較して低い割合となっていた（図1）。この要因について、今後の動向を踏まえて検証していく必要があるだろう。

末筆ながら、年度末のご多忙な中にも関わらず、話題提供者として積極的にご協力いただいた皆様、そして参加者の皆様に感謝申し上げます。



写真1 セミナー会場の光景

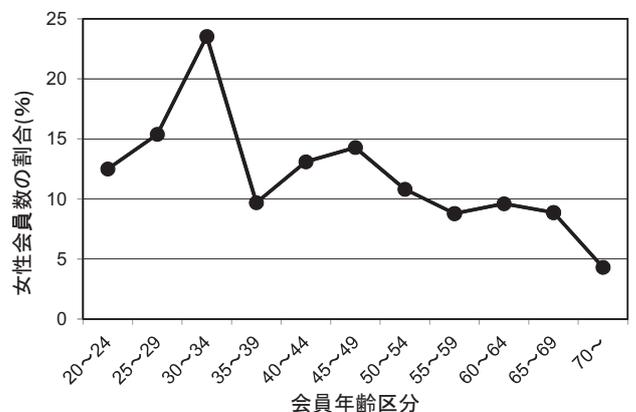


図1 女性会員数が全会員数に占める割合（2015年10月現在）